

「政治・経済・社会的なテーマについて複数の立場や視点から調べ、自分の考えを構築する姿勢を育む学習を目指して」

宮崎県立都城工業高等学校 教諭 波賀 康成

(1) 学校全体の取り組みとして

本校は、宮崎県の西部に位置する都城市に所在する、創立80周年を数える工業高校である。鹿児島県境まで2キロ弱、鹿児島県出身の生徒も在籍している。現在、機械科、情報制御システム科、電気科、建設システム科、化学工業科、インテリア科の6学科各1クラスで学年定員240人、全校生徒700人ほどの学校である。男女比は学科で異なるが、全校では概ね男子4:女子1である。

生徒の7割超は就職しており、県外への就職はそのうちの約3分の2を占める。このような進路状況から、高校が最後の系統的な学びの場になる生徒が多い。

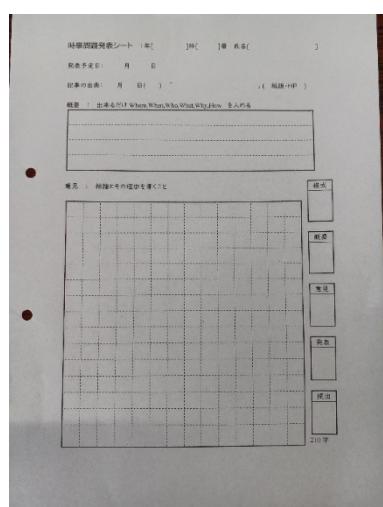
このことを踏まえ、生徒には複数の情報源（新聞）に当たって自分の納得する意見を構築できる主権者に育ってもらうことを目標に、新聞に触れ、新聞から情報を得る経験をしてほしいと考えている。

既に学校図書館で4紙（朝日、日経、宮日、南日本）を購読しており、生徒の閲覧に供している。

教室近くに新聞をディスプレイ



そこで教務部の許可を得て、NIE で購読する新聞は、「公共」の授業を受ける1年生の教室近く（選択教室前）に生徒が自主的に記事も新聞も選べるよう、2～3紙まとめ、100円均一ショップのグッズでディスプレイしてみた（写真上参照）。しかし、この場所から遠い教室の生徒利用が少なかったため、2学期以降は、新聞を配置する場所を2か所にわけ、1週間交代で1紙ずつ配置した。



時事問題発表シート

(2) 実践事例

「誰もがすぐに取り組め、長続きできる実践」の開発を目指し、1年生開講の公民科「公共」(2単位)の授業において、「時事問題発表シート」(写真左参照)をもとに原則毎時間当番制で時事問題の発表を行った。今回は新聞に触れ、一面やラテ欄以外に目を向けてもらい、自分の琴線に触れる記事に出会ってもらうことを目指した。記事選定のセンスも審美眼や高

い見識がなくてもできる実践であると考える。

研究テーマは教科で行う内容のため、「政治・経済・社会的なテーマについて複数の立場や視点から調べ、自分の考えを構築する姿勢を育む学習を目指して」と設定した。

① 1学年 公民科「公共」 年度初め(授業開き)

主な学習活動	留意点等	準備等
時事問題発表の概要を理解する	以下の注意点と目的を説明 ① これから交代で授業の冒頭に、生徒が気になる記事を紹介し、200字以内の意見を述べるという活動 ② 各学期1回ずつ発表することを目標に、1コマに4人ずつ担当を決めて発表 ③ 他の生徒の取り上げる記事に触れて、自分とは異なる視点を得ることにより、視野を広げるメリットがある ④ まとめたり発表したりする機会を繰り返す(場数を踏む)ことで、その質が向上すること ⑤ 複数の生徒が同じ記事を取り上げても構わない。異なる視点からの感想を聞く機会を得られるため。ただし、あまり続くと君たち聞く方が飽きてくるのでほどほどに	真っ白な「時事問題発表シート」、先輩の実例

生徒の多くは、残念ながら「社会科」はそれほど好きではなく、授業者が喋る時間が減ると聞くく、ちょっと乗り気になる。

1ヶ月ほどの準備期間をおいて、実施する。

② 1学年 公民科「公共」 毎時間冒頭

学習指導案(指導過程)

主な学習活動	留意点等	準備等
あらかじめ割り当てた生徒4人による記事の紹介(概要と意見 200字)を聞き、世界で何が起こっているかを理解する[5分程度]	発表中、「意見」「発表の方法」で思考・表現を評価、「出典明示」「概要」で主体性等を評価	時事問題発表シートを縮小して生徒分印刷
授業者によるコメントを聞き、異なる視点を獲得する[5分程度]	生徒のメッセージを繰り返す 違う視点を意識的に提示する	

それに加えて、年度途中から評価の項目を公表した。評価Aの基準、Bの基準の具体例を示し、何をどう準備するかを生徒に意識してもらうためである。

また、毎年12月には「今年の十大ニュース」として、世の中のニュースと自分の一年間のニュースを振り返って、ランキング付けをし、まとめてもらっている。これを読むと生徒たちが学校にいるとき

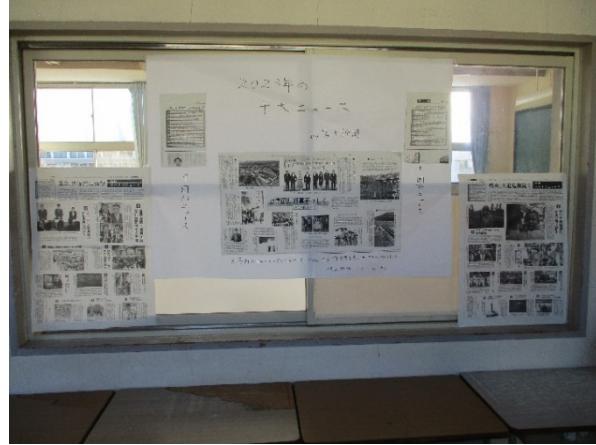
以外に何にふれ何を考えているかを知る一助になる。

(3) 実践の感想、今後の課題

①生徒の感想

○印象に残った記事(代表的なもの)

- ・能登半島地震です。理由はこれまでたくさんの人が発表してきたし自分が生まれてから地震があって実際に記憶に残っているのはそのことなのでとても印象に残りました。
- ・佐土原高校の生徒たちが人工透析を受ける患者向けの災害対策アプリを開発した記事。理由は自分と同じ高校生が人工透析患者の役に立つアプリを開発したのはすごいなと思ったからです。
- ・イスラエルによるガザの病院攻撃:親が亡くなってる子がいて可哀想だと思ったから。



2023年度の十大ニュース[国内編・国際編・地方編]を拡大コピーして掲示した。

○生徒の感想(一部)

・新聞には、いつも見ているテレビのニュースやスマホのニュースなどにのっていない記事がたくさんのっていて、自分や友達が知らないことを知る機会になったのでとても良いなと思いました。また、自分が調べた時事問題の内容と友達が調べて発表している時事問題の内容は全然違っていて、

自分が見ていなかった記事を知れたり友達が気になっている記事の内容やそれに対する感想がそれぞれ知れるので、そこもこの時事問題の発表をしたり聞いたりすることで知れるので面白かったです。

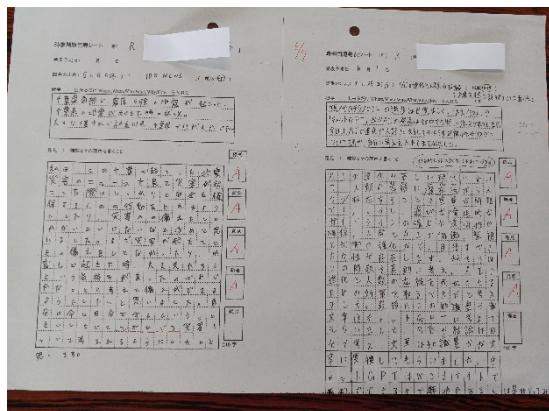
・家で新聞を取っていなくてあまり読むことがなかったので、この機会に少しだけ新聞を見て良かったです。

・自分がいかに世の中のこと今何がどうなってどのように大変な状況なのか、危機的状況なのかを知らずに過ごしていたかがわかりました。これからは、もっともっとニュースに関心をもって生きるきっかけになってよかったです。

- ・発表が恥ずかしいので、先生だけに個人で発表する形式に変えてほしい。

②授業者の感想

インテリア科の男子生徒が3学期に文化面のパリコレの記事を取り上げた。授業者としては「1年



生徒には A4判2枚分を縮小し裏表で配布す



年度末には休み時間に新聞を広げる生徒の姿を見かけるようになった

新聞オンラインや LINE ニュースをはじめとするネットニュースを参照して発表していた。ネット上で耳目を集める記事やトップページの14文字の見出しを引用して発表することもあり、記事の選定基準に安易さを感じていた。3回目の発表で、新聞の2面以降に触れた生徒が増え、新聞記事の多様さに気づいてもらえたと思う。

授業者のコメントが、「発表者以外の視点を提示する」意図が十分に汲み取られずに、マイナス評価(ダメだし)に受け取られている可能性があり、提示に注意を払っていきたい。

③今後の課題

改めて、実態把握の必要性を痛感した。まず、4月を準備段階として、新聞にどれくらい触れているのか、などのアンケートを行いたい。また、「複数の立場や視点」から「自分の考えを構築する」という年度当初の研究テーマに近づけるためにも、どんな記事が、どんな取り上げ方があるのか、ということを授業開きを含め4月の段階で示す必要がある。

内容と発表形態については、生徒が選ぶ記事の大半が戦争や災害のような、人の生き死にに関する内容に偏りがちである。それ自体は非難されることではないが、そのような記事は誰も異論を挟みようがない。聞く生徒も静かに聞いてくれる。普遍的ではあってもある面で無難な選択に、生徒の「外したくない」「引かれたくない」心理があるとも推察する。教室での心理的安全性をどう構築していくかも課題である。

さらに、授業者側の課題としては、現在は提出されたシートを6クラス別々に印刷し配布している。それをクラス・個人ごとに管理する作業はなかなかの負担である。バックアップをとりながら、タブレットを活用する方法を探りたい。個人発表を苦手とする生徒の評価が不利になることから、代替手段を用意する必要もありそうだ。生徒によっては、人権問題とも捉えられるかもしれない。場合によつては、発表した生徒へのクラス生徒全体からのフィードバックとして、「紙上討論」を取り入れる余地もあるのではないかと考えている。

をかけて、やっとここまで来たか」という感慨があつた。中学校までの社会の授業ではファッショングの話題はタブーだったかもしれない。しかし、中学校社会科の公民的分野とは異なり、高校の公民科は、政治、経済だけでなく、哲学や倫理、美学(芸術学)などをも包含する。家庭生活欄・文化欄は、そういった現場の話題の宝庫である。

これまでも公民科(「公共」およびその前身の「現代社会」)では、「時事問題発表シート」などと題して新聞記事の発表に取り組んできたが、紙の新聞から記事を引いて発表する生徒は少なくなり、○○